

令和2年度 第2回苫小牧市スポーツ推進審議会結果報告書

【日時】 令和2年1月22日（金）18時～19時

【場所】 市役所本庁舎9階大会議室

【出席】

▽苫小牧市スポーツ推進審議会委員 8名（12名中）

本間会長、阿部委員、池田委員、工藤委員、島崎委員、鈴木委員、
中村委員、藤岡委員

▼事務局（市）

総合政策部 : 木村部長

まちづくり推進室 : 柴田室長

スポーツ都市推進課 : 畠山課長、木村主査、寛那見主任主事、大村主事、
戸澤主事、荒谷主事、浦主事、脇坂主事

～～～議事内容（審議経過・意見・質問等）～～～

1 開会

2 挨拶（木村総合政策部長）

3 議事（進行：本間会長）

※ 以下の質疑・意見については、▽は委員発言、▼は事務局発言。

（1） 令和2年度スポーツ施策実施実績・予定及び令和3年度スポーツ施策実施予定について（※事務局から説明）

- 市で実施するスポーツ施策の令和2年度実績・予定と令和3年度実績を説明（資料1参照）

▽藤岡委員

新型コロナウイルス感染拡大を受けて令和2年度に新たに実施した事業はあるのか。また、令和3年度に新たに予定する事業はあるのか。

▼事務局

- ・令和2年度に新たに実施した事業としては30番のスポーツ大会感染拡大防止対策支援事業助成金が該当する。
- ・5番の健康ウォーキング事業や41番のアスリートフードマイスター事業、45番の健康に関するイベント実施等は感染対策のため、内容を変更している。
- ・令和3年度については、現在国の新型コロナ対策交付金を活用した事業の協議を行っており、未定となっている。

▽池田委員

8番の東京2020オリンピック・パラリンピック開催事業について、新たな情報はないのか？

▼事務局

- ・オリンピックの延期に伴って、聖火リレーが6月14日（月）に延期となっている。コースについては、現在、組織委員会と北海道で選定中となっている。
- ・卓球男子代表の丹羽孝希選手の壮行会とパブリックビューイングについては、令和2年度同様に令和3年度も実施予定となっている。
- ・事前合宿については、陸上男子走高跳イタリア代表のジャンマルコ・タンベリ選手とナイジェリア競泳代表から打診が来ており、調整中となっている。

(2) スポーツ推進計画見直しについて（※事務局から説明）

●計画案について説明（資料2参照）

▽本間会長

P21のアイスホッケー競技ナショナルトレーニングセンター（NTC）事業について、現在、アイスホッケーのNTCとして指定されている白鳥王子アイスアリーナのリンクサイズが30m×60mとなっている。北京オリンピックのリンクサイズが26m×60mとなっており、できるだけ近いリンクサイズで練習をしたいという要望が女子日本代表から来ている。ダイナックス沼ノ端アイスアリーナが28m×60mであり、追加で指定できるよう日本アイスホッケー連盟とスポーツ庁、日本オリンピック委員会で協議している。

(3) スポーツ施設整備計画について（※事務局から説明）

●計画案について説明（資料3参照）

▽鈴木委員

先ほど本間会長から発言のあったオリンピックのリンクサイズへの変更は将来的に行う予定はないのか。予算も含めて難しいものなのか。

▼事務局

改修には数千万円規模の予算がかかること、アジアリーグを始めとした大会に影響が出てくることから、情報がはっきりし次第検討を始めていくことになる。国際规则的に全部変えなくてはならないことであれば、予算をかけて今後準備をしていかなくてはいけないと考えている。

▽本間会長

数年前にニュートラルゾーンを狭くした際もライン一本入れるだけで浸透するのにかなり時間を要した。また、シーズンが始まってしまうと改修ができなくなる等の影響もある。リンクサイズを変えらるとなると簡単にはいかないのではないかと感じる。

4 その他

▽本間会長

- ・中学校の部活動について顧問の先生が見つからないことが問題になっているが、市で検討している施策はあるのか。
- ・少子高齢化の中、競技人口が落ちてきており、コーチ派遣の登録バンクがあればよいと感じる。

▽島崎委員

- ・国では少年団の指導者に認定育成員の資格を受けさせ、コーチとしてのグレードアップを図っているが、指導者も仕事を抱えており、講習を受けるという指導者がいない。指導者の育成を考える際にはそういった視点も必要である。
- ・中学校ごとに部活動の体制が異なる場合があるため調査をする必要がある。また、国でもスポーツの指導資格の所管が分かれており文科省の所管でない部分も調べて行く必要がある。

▽鈴木委員

- ・スポーツ協会で行っているスポーツリーダーバンク制度は先進的な取り組みであり、しっかりと機能させていくとよいと思う。

▽阿部委員

- ・水泳においては、学校からも外部コーチとして認められた職業コーチによる小中高の一貫教育ができており、全国に行く選手が毎年のように

に出ている。

- ・部活動での指導者がいないと選手も育たないため、指導者の育成こそ優先して取り組むべきと考える。
- ・学校での活動ができないスポーツについては、スポーツクラブでの指導によるところが大きく、競技団体も指導者の育成を進めていくべきである。
- ・現実として学校の部活は難しく、スポーツは学校でやるものではなくクラブでやる時代が迫ってきているのではないかと感じている。

▼事務局

- ・学校教育課の所管になるが、令和3年度から中学校の部活動について専門的な指導員を市の会計年度任用職員として配置し、競技力の向上と先生方の負担の軽減につなげていくと聞いている。
- ・スポーツを支える活動の割合がかなり低いというのは、市としても大きな問題であると認識している。スポーツリーダーバンクについては活用の場が少ないというのが課題となっており、周知不足やクラブや少年団のニーズに合っていない部分もあるので、要望に合ったかたちを模索していきたい。

▽中村委員

資料1の28番で70歳以上の施設無料利用券の配布をしているというのがありますが、詳しく教えてもらいたい。

▼事務局

市のスポーツ施設で70歳以上の方に対して無料利用券の発行を行っている。また、無料利用券を持っていない方でも年齢が分かるような証明書をご提示いただければ、無料で施設を利用していただける。

5 閉会